

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	Academic Written English II		
英文授業科目名	Academic Written English II		
開講年度	2006年度	開講年次	1年次
開講学期	2学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 知能機械工学科		
担当教官名	松原 好次		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
	<a href="http://dictionary.cambridge.org">dictionary.cambridge.org</a> <a href="http://owl.english.purdue.edu">owl.english.purdue.edu</a> <a href="http://www.wc.iup.edu/resources/index.htm">www.wc.iup.edu/resources/index.htm</a>

<p><b>【主題および達成目標】</b></p> <p>(a) 主題：          外国語としての英語を使って自己表現するうえで、written English（書きことばとしての英語）は年々その重要性を増してきている。Eメールを使ったインフォーマルなコミュニケーションは無論のこと、専門分野において調査・研究した内容を発表する際にも、身につけておくべき素養であると言っても過言ではない。Academic Written English II は、1学期の Academic Written English I に引き続き、written Englishを通じた「深いレベルでのコミュニケーション」を目指すために設けられた科目である。Academic Written English I をさらに深めた形の「書く」という作業を通して、論理的に分かりやすく伝えるためのコミュニケーション能力を養うことが、この科目のテーマである。</p> <p>(b) 達成目標：          Academic Written English I で培われた力を応用して、academic written English に使用される中級レベルの英語を読んで理解するとともに、書けるようになることを目標とする。さらに本科目では、リサーチペーパーの構成やライティングのプロセスに対する理解も実践のなかで体得することが求められる。</p>
--

<p><b>【前もって履修しておくべき科目】</b></p> <p>Academic Written English I</p>
--

<p><b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b></p> <p>なし</p>
---

【教科書等】

教科書：教科書：上村妙子・大井恭子「英語論文・レポートの書き方」（研究社）。

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容：

第1回 英語論文の構成—リサーチペーパーの書き方

第2回 ライティングのプロセス—資料収集から推敲まで

第3回～第15回 ライティングの実践—英語によるリサーチペーパーのまとめ方

\*以下の(1)と(2)を有機的に組み合わせて、academic written Englishの基礎を固める。

(1) 英語論文の構成要素を1つひとつ確認しながら、実際にリサーチペーパーを書く。構成要素とは、タイトルのつけかた、要旨の書き方、序論・本論・結論、引用の仕方、参考文献の書き方、注のつけかたなどである。

(2) ライティングのプロセスを体得するため、実際にリサーチペーパーを書く。その過程で、アイデアの発見、資料収集、文献メモ、下書き、推敲などについて学ぶ。

第16回 期末試験

(b) 授業の進め方：

リサーチペーパー・ライティングの全体像把握に力点を置くと同時に、「書く」技法のディテールもおろそかにせず授業を進める。特に、日本語を母語とする学習者が陥りやすい間違いを指摘することによって、学生1人ひとりが自らの力で推敲する習慣を養う。具体的には以下のとおり。

(1) 音読を含めた「読む」作業のなかで、英語論文の構成を確認する。

(2) 上記の構成を利用して、リサーチペーパー・ライティングに着手する。積み上げ方式で1本の論文をまとめあげることがねらいであるが、各授業のポイントに関する課題は授業終了時に提出を求める。ただし、次の授業時までの課題とする場合もある。

(3) よくある間違いを指摘する。その際、論文の構成要素に関する間違いだけでなく、英語表現（文単位・文を超えた単位）に関するものにも注意を向ける。

(4) 書いた英文を発表する作業のなかで、「話す・聞く」の基礎作りをする。

## 電気通信大学 平成18年度シラバス

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法：

演習課題の評価点(70%) + 期末試験の評価点(30%)

(b)評価基準：

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

- ・毎授業時の演習課題で、ポイントに沿った英文(パラグラフ・エッセイ)が書けていること。
- ・期末試験で、本科目の目標(まとまった構成を持つ中級レベルの academic written English)に達する英文が書けていること。

### 【オフィスアワー：授業相談】

金曜日 12:45 ~ 13:30

### 【学生へのメッセージ】

英語で論文を書くことは難しく、骨の折れる作業ですが、構成を把握し一步一步進んでいけば必ず書けるようになります。自分の考えていることや調査・研究したことを英文で書くことに挑戦してください。

### 【その他】